

## 令和3年度 第3回 小平市介護保険運営協議会 会議要録

1	開催日時	令和3年12月16日（木） 午後2時～午後4時
2	開催場所	福祉会館 4階 小ホール
3	出席委員名 (敬称略)	井上斉、上地洋子、上原健嗣、小栗作郎、川村信子、小林美穂、清水太郎、下村咲子、田中伸一、福井直枝、星辰郎、御厨玲子、渡邊浩文（13名）
4	配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和3年度 第3回 小平市介護保険運営協議会 会議次第</li> <li>(2) 資料1 地域密着型サービス事業所の新規指定について</li> <li>(3) 資料2 地域密着型サービス事業所の指定更新について</li> <li>(4) 資料3-1 令和3年度 小平市地域包括支援センター活動報告（4月～10月）</li> <li>(5) 資料3-2 令和3年度 小平市地域包括支援センター（中央センター）基幹型の業務活動報告（4月～10月）</li> <li>(6) 資料4 令和3年度 小平市地域ケア会議実施報告（4～10月）</li> <li>(7) 資料5 総合事業の事業所指定の状況について（令和3年12月1日現在）</li> <li>(8) 資料6 令和3年度こだいら認知症週刊（実績報告）</li> <li>(9) 参考資料 事前質問への回答</li> <li>(10) リーフレット「認知症になっても安心の地域をつくろう」（令和3年11月）</li> </ul>
5	傍聴人数	1名
6	次 第	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 配布資料の確認</li> <li>3 協議・検討事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域密着型サービス事業所の指定、指定更新について（資料1、2）</li> </ul> </li> <li>4 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域包括支援センターの活動報告、地域包括支援センター（中央センター）基幹型について（資料3-1、3-2）</li> <li>(2) 地域ケア会議実施報告について（資料4）</li> <li>(3) 総合事業の事業所指定状況について（資料5）</li> <li>(4) 小平市地域包括ケア推進計画 第4章 施策の取組について（小平市地</li> </ul> </li> </ul>

		<p>域包括ケア推進計画 P64～P73)</p> <p>① 地域づくり・日常生活支援</p> <p>② 介護予防・健康づくりの推進</p> <p>③ 見守り体制の充実総合事業の事業者指定状況について</p> <p>(5) こだいら認知症週間の実施について(資料6)</p> <p>5 閉会</p>
--	--	---

## 1 協議・検討事項

### (1) 地域密着型サービス事業所の指定、指定更新について

[質疑応答]

なし

## 2 報告事項

### (1) 地域包括支援センターの活動報告、地域包括支援センター(中央センター)基幹型について

[質疑応答]

なし

### (2) 地域ケア会議実施報告について

[質疑応答]

なし

### (3) 総合事業の事業者指定状況について

[質疑応答]

なし

### (4) 小平市地域包括ケア推進計画 第4章 施策の取組について

- ①地域づくり・日常生活支援
- ②介護予防・健康づくりの推進
- ③見守り体制の充実

委員：コロナ禍でずっと開催できていなかった、高齢者向けの居場所のほのぼのの広場が12月によりやく開催された。茶や昼食は出せず、やれることが少なかったが、参加者同士顔を合わせることができたことが大きかったと思う。開催前は、参加者が少ないかと思われたが、予想に反し、大勢の参加者がいた。

見守りの関係では、民生委員は75歳以上を訪問する予定であるが、コロナ禍で予定通りに実施できていない。その中で、訪問の必要性が高い対象者宅にポスティングを行っている。また、相談があった場合には、マスクをした状態で訪問をしている。

会長：その中で、コロナ禍で感じられることや、今後の施策を進めていく上で何か検討すべきと思うことはあるか。

委員：コロナ禍で、一人暮らしの方は、非常に運動不足になっている他、食事や、病院のために外出するのも抵抗があるといった相談を受けている。また、電話で長時間話を伺うことが増えたことも、コロナ禍の大きな影響かと思う。

委員：小平市で病院を開業しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で来院する患者の数が激減したというのは間違いない。今、少しずつ患者が増えてきているが、久しぶりに受診する高齢の方について、衰えを感じるような印象がある。2年ぶりに来院した患者が、軽度の認知症を患っていたことなど、実体験として感じるようになった。

委員：コロナ禍においては、軽度者の方々の利用控えというものが非常に多かった。そのため、要支援又は要介護1程度の方々のうち40%ぐらいの方々が、何かしら体調の変調を訴えているというようなことが見受けられた。やはり、コロナ禍において、孤立していく高齢の方も非常に多く、1週間誰とも口をきいていないといった方もたくさんいる。そのため、コロナ禍において、いかにそうした地域の高齢の方々がつながれるかが重要であると感じる。国では、ICTの活用などが言われているが、実際、高齢の方がICTに馴染めるのかといったように、様々な課題がある。どのような形で地域とつながって孤立しないで生きていけるかということが課題なのかと思う。

会長：「つながり」というところでは、やはり介護保険サービスだけではなくて、多様な地域の居場所づくりとかが必要になってくると思うが、居場所づくりの状況であるとか、またコロナ禍の状況とかで今後の進め方などはあるか。

委員：コロナ禍の中で「つながる」という部分に関しては非常に難しく、地域包括支援センターは、今までは集まることでつながりを持つということをずっとやってきた。しかし、コロナ禍でそういった機会を中断される状況になった。地域包括支援センターでは、第2層協議会における各種活動も、全て中断された。Web会議を活用しているが、高齢者の中には利用が難しい方もいる。そのため、オンライン形式と実際の集まる形式とを併用している。その中で、少数ではあるものの、公民館などでの集まりや、サロン活動、オレンジカフェを再開している。

また、協議会で、子ども食堂について提案が出た。障がい者向けの施設と共同で、「だれでも食堂」をやりたいという話ではあるが、現在はコロナ禍でなかなか動けず、準備期間として令和4年4月に試験的に開始を目指し動いている。社

会福祉法人として社会貢献事業として行っていきたいので、施設の職員、地域の方々にも協力をしてもらい、令和4年度に「だれでも食堂」として、我々社会福祉法人としては食事を提供し、人的なものは地域の方をお願いする形で、準備活動をしている。民生委員などを通じ、地域の方から情報を貰い、閉店となった店に食器をもらいにいたり、農家の方々から不要になった野菜を寄付していただいたりするなど、現在、そういった「つながり」を持つような活動をしている。

会 長：少しずつではあるが、高齢者や住民の活動に参加したいという気持ちが強くなってきている中で、活動が再開されたり、新しい活動を開始されたりというようなところもありつつも、やはりこの2年近くの状態というのは、いろいろな大きな生活に変化があるというような話が出てきたと思われる。

委 員：私は自治会の会長をしているが、自治会の中で、一人暮らしの認知症の方などがおり、いろいろ難しさを感じている。例えば、その方の家族に連絡することの難しさがある。連絡が取れず、民生委員を通じて、ようやくその家族とコンタクトを取ることができるようになったものの、私たちが日常に感じている心配が、その家族には中々通じず、あまり向き合ってもらえない。現在、その方は、ケアマネジャーと相談しているようだが、毎日接している私たちとしては、家族にこちらの心配が上手く伝えられないことがもどかしい。その方とは、何人かで1日1回30分程度、外に一緒に楽しくお散歩行っている。日常的な手伝いをするところもあるが、そのことについて「そういうことをしていて何かあったときに責任が取れるのか」と言われて不安を感じた。しかし、一方では、「あなたたちがそうやってご近所にやってあげているから、ご家族は安心して任せているのではないか」と言われることもあるため、悩みとなっている。

また、私たちの自治会では、見守りを兼ねて、月に2回ほど集まっている。ところが、なかなか参加にあたって、一歩が踏み出せない方もいる。そうした方に対して、手紙を持って行こうかという話も出ているが、やはり、どのようにしたら来ていただけるのかといった悩みや課題がある。

小平市では介護予防ボランティアポイント事業があるが、ポイントをもらうことより社会貢献をすることのほうが意欲につながるのではないかと考える。自分のためにポイントをもらうより、誰かの役に立つことのほうが、体も動くし、気持ちが上がると思う。高齢者はそれぞれ得意なことを持っていると思う。そのため、ポイントをあげるから動きなさいというのではなく、生きがいが発揮できる場所をたくさんつくって、そこで高齢者の持っている力を出してくださいというように、自分の孫や子がそばにいなかったら、よその子や孫の手伝いをしましょうといった形のほうが動けるような気がする。

事 務 局：小平市の地域づくりにおいて、ボランティアに意欲的に活動していただくための環境整備に取り組んでいる。内容や対価については、他市の事例等を参考にして

いるところではあるが、今後も意見交換を重ねる他、随時提案を受け付けている。

なお、ポイント事業においては、ポイントそのものだけでなく、スマートフォンのアプリケーションなどを活用することで、意欲的に取り組みができる仕組み作りに努めている。

また、集まりの機会として、小平市では、専門家や保健師による出張講座や講話の場を提供することが可能なため、活用していただきたい。その他、各種講座等の依頼などがあれば、小平市の担当または地域包括支援センターに相談いただきたい。

会長：高齢者でもできることをというのは、地域共生社会を考える上で、大事な意見だと思う。また、見守りの支援などをやっているからこそいろいろな問題が出てきている。そのため、知恵を出しながら乗り越えていくということが大事だろう。他に、役割だとか出番が人をいきいきさせるというのはその通りで、何か一方的に援助される側、見守られる側というのではなく、何か自分がまた一方でできるといった、そういう関係ができていくことが大事であると思った。

#### (5) こだいら認知症週間の実施について

[質疑応答]

なし